

**主 題：今なら生まれ変わる**  
**聖書箇所：ヨハネの福音書 4章1-26節**

今日、私たちはひとりの罪多き女性の救いのことを聖書の中から学んでいきたいと思えます。彼女は人目を避けて生活していました。恐らく、彼女が住んでいた村の人たちから度々悪口を言われ、誹られていたのでしょう。そんな女性に主イエスが近づき、彼女を救いへと導かれるのです。この出来事は、改めて、主の恵みの偉大さに気付かせてくれます。この女性がイエス・キリストの救いに与るその様子が今日見る聖書の箇所に記されています。その箇所はヨハネの福音書4章です。1-26節をいっしょに見ていきましょう。

この女性の救いを通して、どのようにして救いに与ることができるのか？どうすれば、罪人である私たちは神が備えられた救いに与ることができるのか？どうすれば私たちは罪の赦しをいただくことができるのか？この聖書の箇所はそのことを明確に教えてくれています。ここにおられる皆さんの中で、まだこの救いをご自分のものとされていない方がおられるなら、その方にとって今日が救いの日となることを心から願います。

1-26節を二つに分けて見ていきます。1-9節までと10-26節までです。

**☆サマリヤの女性はどのようにして救いへと導かれていったのか？**

1-9節を読みましょう。「:1 イエスがヨハネよりも弟子を多くつくって、バプテスマを授けていることがパリサイ人の耳に入った。それを主が知られたとき、:2 ——イエスご自身はバプテスマを授けておられたのではなく、弟子たちであったが——:3 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。

4:4 しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。:5 それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。:6 そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は第六時ごろであった。:7 ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください」と言われた。:8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。:9 そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」——ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである——、

この箇所から私たちが教えられることは何でしょうか？

**A. 主が愛してくださった 1-9節**

神は罪人を愛しておられる、神はあなたを愛しておられるということを見るのが出来ます。救いが可能なのは「神が愛だから」です。聖書の中に「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハネ4:10)ということばがあります。あなたが神を愛したから神があなたを愛されたのではなく、神が一方的にあなたを愛してくださったということです。そのことがここに記されているのです。4:11には「…神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、…」とあります。すべてはここから始まると言えます。つまり、もし、神が私たちのようなさばかれて当然な罪人を愛してくださったのでなければ、救いの可能性はゼロ、チャンスはなかったのです。主とこの女性のやり取りは、創造主なる神が罪人を愛しておられることを明らかにしています。「罪人を愛する愛」とはどのようなものかが明示されたのです。

**神の愛とは？**

**1. 一方的な愛 :**

彼女がイエスの許に来たのではありません。イエスが彼女の許に行かれたのです。ですから、神の愛は一方的なものです。神ご自身がその選択を為さり、そして、そのように行動してくださったのです。なぜ、主イエスが彼女のところに行かれたのか？それはイエス・キリストがこの女性にとって何が一番大切であるかをご存じだったからです。彼女には「罪の赦し」が必要だったのです。そして、その罪の赦しを与えるために、イエスは敢えてこのサマリヤの町を通って井戸のかたわらに行かれて、そして、この女性のところに自ら出向いて行かれるのです。彼女が何か良いことをしたからではなく、また、愛を受けるに値する存在だったからでもありません。愛されるに値しない存在を、主が一方的に愛してくださったのです。

**2. 無条件の愛 :** しかも、この愛は無条件でした。神が彼女を愛されたこと、そこには偏見も差別もありませんでした。ここに書かれているように、ユダヤ、つまり、エルサレム辺りでイエスは働きをされていましたが、そこを去ってガリラヤ湖の北の方へ向かって行こうとされたのです。その途中にあるのがサマリヤの町です。選択肢があって、その道を通れば一番近道なのですが、ユダヤ人たちはその

道を通りませんでした。彼らはヨルダン川の東側を通っていました。なぜなら、ユダヤ人にとってサマリヤの人々もその土地も汚れたものであると考えていたからです。

なぜこのようなことになったのか？と言うと、紀元前700年代にアッシリヤが北王国イスラエルを滅ぼします。その当時、アッシリヤを率いていたサルゴン2世は北王国イスラエルの指導者たちを自国へと移住させていきます。それで終わったのではなく、今度はイスラエルに様々な人々を移り住ませるのです。Ⅱ列王記17：24「アッシリヤの王は、バビロン、クテ、アワ、ハマテ、そして、セファルワイムから人々を連れて来て、イスラエルの人々の代わりにサマリヤの町々に住ませた。それで、彼らは、サマリヤを占領して、その町々に住んだ。」、現在のイラクやシリアなど、イスラエルを囲んだ様々な国です。そうすると、イスラエルの人々は彼らから持ち込まれて来たいろいろな偶像の影響を受けたのです。当然、外部から入って来た人たちはイスラエルの神を信じていたわけではありません。自分たちが信じている様々な偶像を持ち込んで来たのです。そこに住む人たちはその影響を受けて、これまでのイスラエルの神を崇拝する信仰だけでなく、それらの偶像を崇拝するようにもなったのです。Ⅱ列王記17：33「彼らは【主】を礼拝しながら、同時に、自分たちがそこから移された諸国の民のならわしに従って、自分たちの神々にも仕えていた。」。

ですから、南王国ユダの人々からすれば、このサマリヤは汚れたところであって、ゆえに、ここに書かれている通り、「ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである——」、このような理由があったのです。明らかに、ユダヤ人たちはサマリヤの人々を憎み蔑んでいたのです。この女性がイエス・キリストを見たときに、ユダヤ人と分かったのはイエスが身に付けたおられた衣服からそのことを判断したのでしょう。恐らく、衣に房が付いていたのでしょう。いずれにせよ、イエスと弟子たちはユダヤ人でありながら、敢えて、このサマリヤを通り、そして、主イエスはスカルの井戸で、罪の中を歩んでいる一人の女性にことばを掛けられたのです。

◎これが神の愛です。神の愛には偏見がありません。どんな人であっても、社会的に地位があろうとなかろうと、教育を受けていようと受けていなくても、神はすべての人を愛してくださっています。あなたのことを愛しておられます。そうでなければ、イエス・キリストはこの地上にお見えにならなかったからです。クリスマスをお祝いするのは、神があなたのことを愛してくださっているからです。この出来事からも私たちは神の愛を知ることができます。神は一方的に無条件でこの女性を愛しておられるのです。

## B. 主ご自身が真理を明らかにされた 10-26節

### 1. 救いの真理を教えた主 10節

主はこの女性が知らなければならない真理を明らかにしていけます。10節には「救いの真理」が語られています。救いに与るために知らなければならない真理です。つまり、救いに与るためには何を知らなければならないのか？罪が赦されるためには何を知らなければならないのか？ということです。その三つのことがここに記されています。10節「イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」、

#### 1) 救いの必要性

私たちには救いが必要だということです。「私は罪人だ」ということを知らなければならないのです。残念ながら、私たち日本人にとってこの「罪人」ということばは難しいです。私たちの文化は「罪」ではなく「恥」だからです。だから、私たちは人と自分を比較することをします。でも、あなたを造った神はすべてにおいて聖くすべてにおいて正しい方ですから、神はあなたにも同じように正しさ聖さを要求しておられます。その神の目にあなたはどのように映っているのかを見るのです。そのことを考えるのです。悪い知らせは、この方はあなたのすべてをご存じだということです。あなたの心の隅々まで、だれも知らないと思っているあなたの心の中でひそかに抱く願いや思いに至るまで、すべてのことを知っておられます。だから、神なのです。

ですから、まず、私たちが救いに与るために必要なのは、神の目に私はどのように映っているのか？神の前に私はどのような存在なのか？そのことを正しく知ることが必要なのです。イエス・キリストはそのことをこの女性に教えていこうとされるのです。飲む水から生ける水へと話を展開していきます。そして、その「生ける水」の大切さを、つまり、救いの大切さを彼女に話していかれるのです。なぜなら、彼女が救いに与るために、罪の赦しをいただくために、まず、彼女が知らなければならなかったことは「私には救いが必要だ、罪の赦しが必要だ」と悟ることでした。そのために、イエスはこのことを話していかれるのです。

2) 救いは神の恵みである : 罪の赦しは、あなたが何かを一生懸命行うことによって与えられるものではないということです。救いは神からの恵みなのです。

3) 主イエス・キリストは神であり救い主である : 主イエス・キリストがだれであるかを知ること、

主イエス・キリストは私たちの神であり救い主です。このことをイエスはこの女性に話されたのです。ところが、11節から見ていくと、彼女はそれが理解できませんでした。11-12節「:11 彼女は言った。「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。:12 あなたは、私たちの父ヤコブよりも偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼自身も、彼の子たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」、彼女はまだ飲み水のことしか考えていませんでした。イエスは「生ける水」のことを話されたのですが、彼女はまだそれが分かっていなかったのです。そこでイエスは13節から、彼女の理解を助けていきます。

## 2. 女性の理解を助けた主 13-15節

主は「生ける水」、すなわち、救いのもたらす祝福を語っておられます。13節「イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。」、彼女はH<sub>2</sub>Oの水のことしか考えていません。14節「しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」、

### ◎「生ける水」、すなわち、「救い」のもたらす祝福とは? 13、14節

1) 完全な満足を与える : 暑い中で冷たい井戸の水は喉を潤してくれるでしょう。でも、イエスが言われたことは「あなたはこの水を飲んでもその一瞬だけ満足を与えるだけでまた渇きを覚えるでしょう。でも、わたしが与える水は永遠の満足、完全な満足を与えるものだ。」ということです。決して渇くことがない、絶対に渇きを覚えることがないと。この世のあらゆるものを手に入れても得ることのない満足のことを言われているのです。私たちはこれまでいろいろなもの手に入れて来ましたが、そこにあると思っていた満足があるかということ、何か虹を追いかけているようではないですか? あそこまで行けば…とか、これを手にすれば…と。でも、そこに行ってみるともう虹は自分の後ろになっていた。そこにきっと満足があると思って一生懸命生きて来たが、残念ながら、そこには求めているものはなかったと。イエスは「本当の満足はわたしが与える」と言われたのです。もっと言えば、主イエス・キリストだけが与えることができるものだということです。Ⅱコリント9:8に「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」とある通りです。

2) 永遠のいのちを与える : イエスは「わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」とされています。井戸ではありません。汲んでも汲んでも湧き出て来る水は尽きることがないのです。この「わき出る」とは水が湧き上がって来る様子です。つまり、救いに与った人たち、この「生ける水」を飲んだ人たちは救われたことの喜び、永遠のいのちをいただいた喜びが尽きることがないのです。それがこんこんと込み上げて来るのです。

私たち信仰者はそうではありませんか? 私たちは一日一日、主イエス・キリストにお会いする日を待って生きています。私たちは死んでも生きるという希望をもっています。私たちがイエスにお会いしたときは、すべての罪から解放されてイエスとともに永遠を過ごせるのです。私たち信仰者の希望は神が備えてくださったすばらしい永遠です。その上、私たちはこの地上にしながらその希望をもって生きていけるのです。その希望は、神が私たちとともにいてくださること、必要を満たしてくださる、私たちを守ってくださる、支えてくださる、導いてくださる。私たちの羊飼いはちゃんとわれわれ羊を守り導いてくださるのです。

ですから、イエスはここで「わたしが与える水を飲む者は、その人のうちでちょうど泉の水が湧き上がり続けるように、こんこんと込み上げて来るように、永遠のいのちの喜び、確信が同じように湧き上がって来る」と言われたのです。だから、救われた人たちはその救いを喜びながら生きているのです。救われていながら悲しんでいる人がいるならどうでしょう? 救いを嘆いている人がいたらどうでしょう? 永遠のいのちが与えられたことを嘆いていたら…? その救い自体に問題があります。

救われた私たちは救われたことを、そして、永遠の約束を与えられたことを感謝しながら、喜びながらそれを待ち望みながら生きることができます。イエスが言われたのは、生ける水を飲む人たちは本当の満足を得る、それは物があるとなかろうと、自分の思うように物事が進もうと進まないとしても、健康であろうとなかろうと、どんなときにも心からの満足をもって生きることができるし、その人の心の中には永遠のいのちが与えられた喜びが込み上げて来る、その希望がその人の心に溢れるということです。その祝福をイエスは話されたのです。

イエスの話を聞いた女性はこのように言います。15節「女はイエスに言った。「先生。私が渇くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」と。この箇所を見る限りでは、まだ彼女はイエスが言われることのすべてを理解していません。でも、少なくとも彼女が理解したのは

「その水を私は欲しい!」と、その水への渇きを覚えるのです。そこでイエスは本題に入っていけません。

彼女を救いへと導いていかれるのです。

### 3. 救いへと導かれる主 16-26節

すばらしい祝福があることを彼女は聞きます。その上で、イエスは彼女を実際に救いへと導いていかれます。先ほど、私たちは三つのことを見ました。「救いの必要性」、「救いは神の恵み」だということ、そして、「イエスが救い主」であること、そのことをイエスは女性に話しておられます。

#### 1) 救いの必要性 : 自分が救いを必要とする罪人であることに気付かせる 16-19節

#### ◎行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい 16-18節

16節「イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」と。話の流れを見ると、このことばは唐突です。水の話をしていたのに、イエスは突然「あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われたのです。イエスは何か言わなくてもいいことを言われたのではありません。イエスは完璧な教師です。意図的にこのことばを言うのです。すると、彼女はこのように答えます。17節「女は答えて言った。「私には夫はありません。」と。続いて「イエスは言われた。「私には夫がないというのは、もっともです。18節「あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。」

このサマリヤでは離婚というものは許されていました。どのような理由か分かりません。夫が五人いたと言います。でも、ここに書かれているように「今あなたといっしょにいるのは、」、つまり、今あなたがいっしょに住んでいるのはあなたの夫ではない、つまり、同棲しているということです。結婚しないでいると。これは明らかに神の前に罪です。なぜなら、結婚という神のおきてを犯しているからです。どんなに世の中がそのような流れを良しとしても、神のみことばは私たちに何が神のみこころであり、何がみこころに反するのかを教えています。ですから、イエスはここで「あなたの言っていることは正しいけれども、あなたのやっていることは間違っている。」と言われたのです。彼女の罪を彼女自身に明らかにしたのです。

\* 彼女が「不品行の罪」を犯していることを明らかにした

\* 主は、彼女には罪からの清めが必要であることを示す

#### ◎彼女は「自分の罪が示されたとき」、その弁解も否定もしていない 19節

それを聞いた彼女は大変驚きます。19節「女は言った。「先生。あなたは預言者だと思います。」と。初対面のこの人が自分自身の隠れたこと、隠しておきたいその過去を、そして、今現在を知っていること事態が驚きだったのです。イエスが「夫を呼んで来なさい」と言われたときに彼女は自分自身の生活のすべてを見るわけです。「私は悪くない、私を騙す男たちが悪い。生まれた環境、生い立ちに問題があったから。」などと罪の転嫁もしていません。そして、このやりとりを通して、彼女は良いと思ったかもしれないけれど、神はそう思っておられないということに気づくのです。そして、彼女は「罪の赦し」へと心が導かれていくのです。

#### ◎そこで彼女は「赦し=救い」について主に質問する 20節

20節「私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」と、なぜ、こんなことを女性が言ったのか?彼女が言っているのは、「では、どこに行けば赦しを得ることができるのか?」ということです。

**場所** : 「赦しを得るためには私たちが言っているようにこのゲリジム山で良いのか、それともユダヤ人が言うようにエルサレムまで行かなければいけないのか?」と、つまり、彼女がこうして場所を指定したのは、どこに行けば罪の赦しが得られるのか?とそのことを問うているのです。彼女は罪の赦しを得るための「ある特定の場所」を考えたのです。「どこに行ったら…?どんなことをしたら私のこの罪を赦していただけるのでしょうか?」と考えたのです。このように、少なくとも彼女は救われたいと願う人へと変えられたのです。この会話を通してイエスは彼女に「あなたには罪の赦し、罪の清めが必要だ」ということを悟らせるのです。だから、彼女はそれに対して「どこへ行ったら良いのですか?どこに行ったら聖めていただけるのですか?」と問うのです。ですから、まず初めに、イエスは彼女に「あなたには罪の赦しが必要なのだ」とこうして示していかれるのです。

#### 2) 救いは神の恵みであること : 行いによるのではない 20-24節

二つ目に「救いは人間の行いによって得るものではない。神の恵みだ」ということをイエスは説明しています。今読んだように「どこに行けば良いのですか?」と言う女性に対して21節から「:21 イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。:22 救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。:23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼

拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。:24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」と答えておられます。

初めに、私たちは10節で「救いは神からの恵み、神からの賜物、プレゼントだということを知らなければならぬ」ということを見ました。そのようにイエスは話されたのです。でも、ここを見ると確かに彼女はそれが分かっています。どのような努力をすれば、どういう行ないをすればこの罪の赦しを得ることができるのかと、そのことを彼女はイエスに問い掛けたのです。そこでイエスは「どんな行ないによっても救いを得ることはない。」と言われたのです。

#### (1) 人間による赦し(救い) 20-22節

なぜ、この女性がこのようにある特定の場所を口にしたのでしょうか？実は、このサマリヤにはゲリジム山という山がありました。この山は主がモーセに「あなたはゲリジム山には祝福を、」と言われた山です。申命記11:29「あなたが、入って行って、所有しようとしている地に、あなたの神、【主】があなたを導き入れたなら、あなたはゲリジム山には祝福を、エバル山にはのろいを置かなければならぬ。」と。モーセと神とのやりとりの中でこのことばが出て来ます。そこでこのゲリジム山に神殿が造られたのです。このいきさつは先ほど話したように、北イスラエルがアッシリヤによって滅び、今度は南王国ユダがバビロンによって滅びます。70年間の捕囚を経てユダヤ人たちはエルサレムに戻って来てエルサレムで神殿を再建しようとするわけです。その時に、サマリヤの人たちも「我々もお手伝いします」と申し出るのですが、ユダヤ人たちは「要らない、助けを必要としない」とその申し出を断るのです。その理由は先ほど見た通りです。偶像崇拜する者たちの助けは必要としないと。そこで、サマリヤ人たちはこのゲリジム山に神殿を造ろうということになって、そこに神殿を造ったのです。

このようないきさつがありました、そこでこの女性は先ほど見たように「どこなのですか？このサマリヤですか？エルサレムに行かなければいけないのですか？」と問うたのです。イエスは21節で「この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」と、つまり、場所ではないと言われました。イエスは「あなたが考えていること、信じていることは間違っている」と言われるのです。罪の赦しをいただくためにどこか特定の場所に行くという考えは違うということです。あなたがどんな行ないをしたとしても、行ないによって罪の赦しを得ることはないのです。

私たちにもそのような考えがあるでしょうか？「これだけ良いことをやれば…、善行を積みば…、これだけみんなが喜ぶ奉仕をすれば…」と、何か良いことをすれば私たちはその結果として救いに与るのではないかと思いませんか？残念ながら、聖書は最初にも話したように、私たちの善行によって救いに与ることはないと教えています。その理由は簡単です。どんなに頑張っても完全なる神の基準に達しないからです。そこでイエスはこう言うのです。22節「救いはユダヤ人から出るのですから、…」、確かに救い主はユダヤ人から生まれて来ました。確かに、神はユダヤ人たちに神のご計画をお話しになり、ユダヤ人たちを通して救いは広がっていきました。「わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」、イエスは「確かにあなたたちは熱心かもしれない。でも、あなたたちの問題は真理に立っていないことだ。自分たちはそれでよしと思っているかもしれないけれども、問題は、神がそれを見てよしとされるかどうかだ。」と言われたのです。

私たちの周りにはそのような考えの人たちがたくさんいます。大変な犠牲を払って日本にやって来ているのに、その教えている内容が真理かというところとそうでないこと、聖書にないことを教えている人たちがたくさんいます。時間的な犠牲も金銭的な犠牲も払って、しかし残念ながら、彼らが教えているのは真理ではありません。

イエスがこの女性に対して言われたことは「あなたたちは確かに熱心かもしれない。一生懸命何かを守っているかもしれない。でも、あなたたちは真理に立っていない。」です。そんな人が私たちの国には溢れています。みんな天国に行きたい、死んだ後永遠のいのちを得たいと思って真面目に生きているでしょう。そういう人は山程います。イエスがこの女性に言ったことは「熱心かもしれないけれど、その熱心さが真理に基づいていなければそれは虚しいことだ。」です。

なぜ、私たちはこうして聖書を持っているのか？神は私たちに神の真理を明らかにしてくださったのです。つまり、私たちが造った神が何をあなたに望んでいるのか、何をあなたに求めておられるのか、何が神に喜ばれることなのか、何が神に喜ばれないことなのか、その真理をこの聖書を通して私たちが知ることができるように神はこの聖書をくださったのです。この真理に基づいてしっかりと私たちは歩むことが必要だと言うのです。このサマリヤの人たちは、ユダヤ人と同じように礼拝をささげていました。でも、神ご自身がその礼拝を喜んでおられなかったのです。自分本位の礼拝でした。私たちは信じる信仰心があればそれで良いと言いますが、神がそのように言われているかどうかです。

#### (2) 神による赦し 23-24節

そこで主はこんなことをお話しになりました。23-24節をご覧ください。あなたたちの信仰はあなたたちが望んでいる救い、罪の赦しを与えるものではないと言われた後、では、どうすればいいのか？神の赦しのことを話されるのです。「:23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。:24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」「礼拝しなければならない」と言われました。このことばは「神に対して栄光、誉れ、感謝をささげること」です。神を誉め称えることなのです。神に感謝をささげることです。神であられるこのお方を心から崇めることです。なぜ、こんなことを言われたのか？この唯一真の神を礼拝する人というのは、この唯一真の神を信じている人たちです。神がここで「真の礼拝者たちを求めている」と言いましたが、神が求めているのは真の神であるご自身を礼拝する者たちです。

そうすると、ここに「礼拝」ということばが書かれていますが、これは「救い」と同意語だということが分かります。神を礼拝するためにはその神を信じなければならない。そして、信じた者たちがどのように神を礼拝するのかがここに書かれてあるのです。自分勝手な礼拝ではないのです。神がお喜びになる礼拝です。それは「霊とまことによって」と言います。このことばは23節と24節に繰り返して書かれています。

「**霊**」とは = その人の霊、その人の心のことです。つまり、あなたの心をもって、あなたの内側のすべてをもって神を崇めなさいと言っているのです。例えば、私たちは神を誉め称え賛美しているかもしれないけれど、それが形式的なものなら心は全然伴っていないでしょう。そんな礼拝を神はお喜びになりません。神が喜ばれるのは「心から神を崇めること」です。『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』（ルカ10：27）です。神を愛することにおいても「心から神を愛すること」を神は良しとされます。神を礼拝するときも私たちのうちなるすべてのものをもって神を崇めることです。それを神は喜ばれるのです。

「**まこと**」とは = これは「真理」のことです。神がお喜びなる礼拝とは、神の真理を学び神のみことばを学び、そのみことばに記されている真理によって刺激された心から湧き上がって来る神への称賛と崇敬です。みことばを学んでそこに記されている神を見たときに、私たちはその神の偉大さに圧倒されてその神に心から「神さま、本当にあなたの御名を誉め称えます」と言います。その礼拝を神は喜ばれるということです。

この女性がどこで礼拝したら良いのですか？どの場所でやれば良いのですか？と問いましたが、イエスは「場所ではない、心だ。あなたが心から神を信じ、心から神を崇める者としてわたしを崇めるならわたしは喜ぶ。」と言われたのです。イエスが言われることは「神を信じて神を礼拝する者に変えられ、そして、神が喜ばれる礼拝をささげていく。それを神は喜ばれる。」ということです。

ですから、今見て来たのは、こうして「どこに行ったら良いのですか？どこに行って礼拝すれば赦していただけるのですか？」と問うこのサマリヤの女に、神が望んでおられること、神が命じておられることをイエスはここで女性にお話しになったことです。「わたしを信じなさい」と、そして、神を心から礼拝する者として生まれ変わることが必要だということをイエスは言われたのです。イエスのことばの中で21節に「わたしの言うことを信じなさい。」があります。イエスが話しておられること、その真理を心から受け入れる者になりなさい。それを信じなさいということです。

今、二つのことを見て来ました。救われるためには何が必要か？自分自身が救いを必要としているということに気付かなければいけない。彼女はそのことに気付きました。あなたはいかがですか？聖書のみことばを見た時に「聖書のみことばは何か私たちの心の鏡のようだ」と、そんなことを言う人がいます。「聖書を見てみると自分の心がそこに映し出されているようだ」と。こうして神は「わたしはあなたの心のすべてを見ています」と、そのことを明らかにしてくださるのです。

そして、では、私たちはどうすればこの罪から聖められるのか？私たちはいろんな方法を考えました。いろいろな宗教を作りました。「こういうことをすればきっと私の罪は赦される」と…。でも、悲しいことに私たちがやって来たことは真理に基づいていなかったのです。自分を納得させることはできるかもしれない、「これだけのことはやったから」と。問題は、神がそれを良しとされるかどうかです。このサマリヤの女にイエスが言われたことは「あなたの行いによっては救われぬ。どんなにあなたが努力しても救われません。救いは神の恵みです。神を信じる者に神が与えてくれるプレゼントなのです。」ということです。

そうでなければ皆さん、この救いには健康な人しか与ることができないのです。こういうことをしなければいけないとするのなら、今まさに死の床にある人には救いの希望はありません。何もできないからです。あの十字架に架かった犯罪人の一人を思い出してください。彼は十字架に架けられて、そして、今まさに死を迎えようとしているその寸前、救いに与ったのです。何かをしたからではありません

ん。彼はイエス・キリストを信じた信仰によって救いに与ったのです。救いとは神からのプレゼントです。

### 3) 主イエスが救い主である 25-26節

そして三つ目にイエスがここで教えられたことは「イエス・キリストが救い主である」です。最後にそのことを教えています。25節「女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを

知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」と。彼女も救世主が来ることを知っていました。なぜなら、サマリヤの人たちもモーセ五書、創世記から始まる五つの書を信じていたからです。その中には、創世記の最初から救世主が来るということが約束されています。だから、彼女は知っているのです。メシヤが来てくれる。メシヤが来れば私たちが罪から救い出してくれると…。そのことを彼女は知っていたのです。

そこでイエスは何と言われましたか？26節「イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」と。疑いの余地はありません。イエスのご自分がだれなのかをはっきりと告白なさったのです。「わたしがそれなのです。あなたと話しているこのわたしがあなたの言っている救世主なのです。」と。だから、イエスがお語りになったこのメッセージは真理なのです。救い主のメッセージだからです。私たち人間が作り出した話ではないのです。私たちが作った宗教ではないのです。救い主ご自身が「こうすれば私はあなたの罪を赦そう」と言われたのです。救い主からのメッセージです。

感謝なことに、彼女はその後このイエスを信じます。救いに与ったのです。確かに、罪を犯したというその事実は拭い去ることはできません。でも、感謝なことに、神はそれをすべて赦してくださるのです。神ご自身が彼女を歓迎してくださるのです。彼女はこの神と自由に交わることができ、そして、罪赦された者としてこの神と永遠を過ごすことができる祝福に与ったのです。主が言われたように、彼女はこの時に初めて心の本当の満足を得ました。それは主が約束して下さったことだからです。そして、彼女に永遠のいのちが与えられました。それがこの主を信じる者に約束された神の祝福だからです。

皆さん、この祝福はまだ残っています。この救いは同じように求めるあなたに与えられるものです。救いは神からのギフトです。あなたが自分自身の罪を神の前に悔い改めて、あなたを造られあなたを救ってくださる真の神であるイエス・キリストをあなたの神として救い主として信じるなら、そのとき神はあなたを救ってくださるのです。

クリスマス、これは救い主が来てくださったことを祝うその時です。救い主が来られ、救い主はあなたのために救いを備えてくださった。イエスの備えてくださった救いは100%、それを信じるあなたに、信じたあなたに神が与えてくれます。神はあなたを招いてくださっています。なぜなら、今ならまだ、この救いがあなたに与えられるからです。どうか、まだ、この救い主に背を向けている方がおられるなら、その誤った生き方を止めることです。主イエス・キリストをあなたの救い主、あなたの神と信じてこの方に従う決心をすることです。この方だけがあなたの罪を赦してくださる方です。この方以外にあなたの身代わりとなって十字架で死んでくださった方はいないからです。イエス・キリスト、この方だけが救い主、キリストなのです。この方の許に救いを求めて、今日出て来てください。救いが与えられます。